

## 仙台市総合計画審議会 第4回まちと活力部会議事録

日 時	令和2年3月23日(月) 18:00~20:20
会 場	仙台市役所2階 第二委員会室
出席委員	飯島淳子委員、姥浦道生委員、菊地崇良委員、今里織委員、今野薫委員、 榊原進委員、笹羅良輔委員、竹川隆司委員、舘田あゆみ委員、西澤啓文委員、 舟引敏明委員、渡辺敬信委員、渡邊浩文委員 [13名]
欠席委員	庄子真岐委員、浜知美委員 [2名]
仙 台 市 (事務局)	福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、 郷湖政策企画部長、松田政策企画課長、郷古地方分権・大都市制度担当課長、 柳沢政策企画課主幹、千代谷政策企画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 令和2(2020)年度審議会日程について (2) 市民参画事業について (3) 基本計画の検討について (4) その他 3 閉会
配布資料	1-1 仙台市総合計画審議会委員名簿 1-2 まちと活力部会委員名簿 2 令和2(2020)年度 審議会日程(案) 3 令和元(2019)年度 区民参画イベント報告書 4-1 仙台市基本計画検討資料 概要(修正版2) 4-2 仙台市基本計画検討資料(修正版3)

### 1 開会

#### ○郷湖政策企画部長

定刻となりましたので、これより「まちと活力部会」を始めさせていただきますと思います。本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。それでは、部会長よろしく願いいたします。

#### ○渡邊浩文部会長

ただいまから「仙台市総合計画審議会 第4回まちと活力部会」を開会いたします。はじめに、本日の審議会運営について、事務局よりご説明があるとのことです。

#### ○郷湖政策企画部長

事務局より、本日の審議会における新型コロナウイルス感染症への予防対策についてのご説明と、委員および傍聴されている皆さまへのご協力のお願いを申し上げます。

本日は、出席されている皆さまの座席間の距離をとれますよう、より広い会場に変更い

たしましたほか、審議会の進行中におきましても適宜換気を行ってまいります。

また、発言用のマイクはお一人1本ずつとさせていただきました。委員の皆さまにおかれましては、マスクを着用してご発言されましても結構でございますのでよろしくお願いしたいと思います。

続きまして傍聴の方々へのお願いでございます。本日は、こうした状況も鑑みまして、受付にて体調などを確認させていただいておりますが、咳症状のある方はマスクの着用をお願いいたします。また、そうでない方につきましても、咳エチケット等にご協力いただきますよう重ねてお願いを申し上げます。

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。皆さんよろしいですね。もうすでに皆さんはほぼマスクをされていらっしゃるんですけども、それぞれにご注意いただければというところです。

次に、定足数等の確認を行います。これも事務局からご報告をお願いします。

#### ○郷湖政策企画部長

定足数でございますが、本日は、現時点で13名の委員の方にご出席をいただいております。定足数を満たしていることをご報告いたします。

続きまして委員の変更について、ご報告をいたします。審議会委員名簿を資料1-1、まちと活力部会委員名簿を資料1-2としてお示ししておりますが、仙台農業協同組合青年部の役員交代に伴い、遠藤耕太委員に代わりまして新たに笹羅良輔委員がご就任されました。また、奥村誠会長の指名により「まちと活力部会」委員となりますので、ご報告をさせていただきます。

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。それでは新たに選任された笹羅良輔委員から、一言ご挨拶をいただきたいと存じます。

#### ○笹羅良輔委員

皆さま、お疲れさまでございます。ただいま紹介にあずかりました、仙台農協青年部委員長になります、笹羅良輔と申します。今、農業をやっておりますということで、紹介のほうは手短にしますが、皆さま、よろしくお願い致します。

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。それではどうぞよろしくお願いいたします。

次に、会議の公開・非公開の取り扱いですが、これまでと同様、公開としたいと存じますが、皆さまよろしいでしょうか。

(了承)

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。それでは公開といたします。

続いて、本日の議事録署名委員の指名ですが、前は今委員にお願いしましたので、今回は今野薫委員にお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

(了承)

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ではどうぞよろしく願いいたします。

それでは次に資料等の確認を事務局よりお願いいたします。

○郷湖政策企画部長

お手元のほうに、座席表、次第、資料一覧、名簿の資料1-1、資料1-2、資料2、資料3、資料4-1、資料4-2をお配りいたしております。それから、青いファイルに前回までの主要な資料を綴じたものを机の上に置かせていただいております。資料の不足などございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

○渡邊浩文部会長

よろしいですね。

## 2 議事

### (1) 令和2（2020）年度審議会日程について

○渡邊浩文部会長

議事に入りたいと存じます。お手元の次第にあります通り、本日の議題は大きく言って3つ、プラスその他ということでございます。

最初に議事の第1、「令和2年度審議会日程について」です。まず事務局より説明をお願いいたします。

○松田政策企画課長

それではご説明します。資料2をご覧くださいと思います。審議会の日程が一覧で表示されておりますけれども、一番下が新年度の審議会日程でございます。

新年度の審議会は全部で6回を予定しております。9月、10月初旬に予定する中間案のパブリックコメントに向けまして、前半は5月から7月までに全体会を3回開催いたしまして、中間案の作成に向けてご審議をいただく予定でございます。

その後のパブリックコメントを経まして、後半は、いただきました市民意見のご確認や中間案の修正等についてご審議いただきまして、令和3年1月の審議会におきましては基本計画の答申案を決定するスケジュールでございます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ご説明の通り、これまでこの部会は3回開催してまいりましたが、本日は一応最後ということになります。お手元の日程案の通り、この後、審議は全体会議のほうに戻りまして、7月下旬の基本計画の中間案の決定というところまでが目下の課題になるというところですよ。

何か、この日程案もしくは事務局の説明について、ご質問等々ありましたらいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では委員の皆さま、このようなスケジュール感で進めてまいります。そもそもこの部会は本日最後ということですので、こんなご時節ではありますが、どうぞよろしく願いいたします。

それから私、マスクをしながら喋っていてちょっと思ったのですが、少し喋りにくいということは、たぶん議事録をとられる事務局も聞き取りにくいということだと思います。我々もすでに顔なじみな感じがありますけれども、ご発言の際には一応名乗っていただき、議事録がとりやすいようにご発言・ご意見等をいただくと良いのかなと思った次第です。併せてご協力をお願いいたします。

(2) 市民参画事業について

○渡邊浩文部会長

それでは議事を進めまして、次は議事の第2「市民参画事業について」です。これも事務局よりまずご説明をお願いします。

○松田政策企画課長

それではご説明します。資料3をご覧ください。こちらは、区別計画の策定のために今年の1月から2月にかけて、5区で行いました区民参画イベントの報告書でございます。お開きいただきますと、最初に青葉区の報告書が出てまいりますが、各区それぞれ2ページ見開きを1セットでまとめているところでございます。

当日は若い方々の参画も意識しながら参加者を募集したところでございまして、小学生をはじめ、中高生、大学生など多くの若い方々の参画もいただきました。5区全体の参加者は222人でございました。

現在検討をしております区別計画の中でも、地域づくりの方向性、その内容も踏まえながら、例えば区の将来像であるとか、区の課題、そして強みなどについて幅広いご意見をいただいたところでございます。

また、未来の区の姿の実現に向けまして、必要な取り組みについてもご意見を多々いただいたところでございます。例えば、「区ゆかりの食材を使ってみんなで食事をする機会をつくってはどうか」といった非常に具体的なお意見や、「お寺で子育て教室を開催してはどうか」といった身近な地域資源を活用した斬新なお意見もあったところでございます。

また、全体としては、世代を越えた交流の場づくりに関するご意見も非常に多くいただきまして、暮らしに身近な目線でのご意見をたくさんいただいたところでございます。

当日いただきましたご意見につきましては、お手元の資料を後ほどご覧いただきたい

と思いますが、これらのご意見も参考にしながら、現在各区で区別計画の骨子案の検討を進めておるところでございます、次回の全体会でその骨子をお示しする予定でございます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。

今ご説明にあった通り、次回の全体会で、この報告書の意見を踏まえながら区別計画の骨子が示されるということでありました。

ということですので、現時点では、この部会ではこの報告書そのものについてのご意見というふうなことに必ずしも限る必要はないのかもしれませんが、今後議論が深められるということも念頭に、何かご質問などがありましたら頂戴したいと思うところです。

いかがでしょうか。前回の部会では飯島委員が区別計画の重要性ということもご指摘してくださっていましたが、何かコメントありますか。

現時点ですぐにこれを言わなければというご意見がないということであれば、このことは冒頭でお話したように全体会でさらに骨子というようにところに踏み込んだご提案がされるということですので、まずはこの区別計画を今後こういった区民参画イベントを踏まえながら進めていくということをまずは承知したということで、次の全体会で本格的な審議にするというふうに進めていきたいと存じます。

また、後で何か思いつくところがあれば、ご発言を適宜いただければと思います。よろしいでしょうか。では、まずは進めることにいたします。次の議題が今日のメインであります。

(3) 基本計画の検討について

○渡邊浩文部会長

3番目の議事は「基本計画の検討について」です。

これもこれまでのこの部会で毎回密度の濃い議論を進めてきたところではありますけれども、さらにその修正版というものを事務局でまとめなおして下さっております。まずはその説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○松田政策企画課長

それではご説明します。資料4-1と4-2でございます。こちらは前回のこの部会でお示した資料に、前回いただいたご意見を反映・修正した資料となっております。

資料4-2が本体資料で、資料4-1はその内容をまとめた概要版となっておりますのでございますが、今回は全体の構成に大きな修正はございませんでしたので、資料4-2に基づきまして、主な修正点を順次ご説明してまいりたいと思います。また、「地域とくらし部会」でのご意見を踏まえて修正した箇所もございまして、情報共有のためにも、併せてご説明させていただきたいと思います。

それではまず5ページをお開きください。この5ページは、今回新たに追加したページでございます、計画の構成をお示しする部分でございます。このページですが、計画策

定の基本的な考えと、その考えに沿った計画の構成立てについて冒頭で説明するページということで差し込んだものでございます。

これまでの審議会におきましても、まちづくりの理念、そして都市像、8つのプロジェクト、分野ごとの施策の方向性など、それぞれの章がありましたけれども、その章についての趣旨であるとか、それぞれがどんな関連性を持っているのか等々についてのご質問が多々あったと認識しておりますので、そういったことも踏まえまして、それぞれの章の位置づけを明確にするとともに、計画の最初の部分にそれをお示しするという一方で、これを読む方についても読みやすく分かりやすいというような工夫をさせていただいたものでございます。

5ページですけれども、冒頭ではこれからのまちづくりを進めるにあたっては「仙台が持つ都市の強みを生かし、協働と挑戦を重ねながら新しい価値観を創造していく姿勢こそが大切」であるという、この基本的な考えをまずお示ししてございまして、この考えに沿って計画が構成されているということをご説明しております。

この考えを踏まえまして、「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」、ここがまちづくりの理念にあたる部分でございますけれども、ここでは新たなまちづくりに向けた考え方として、具体的にはこれまで培ってきた仙台の都市個性をまず見つめなおこと、そしてこれらを深化させた姿を目指す都市の姿として掲げるということを示している部分であるということでございます。

次の「Ⅲ チャレンジプロジェクト」につきましては、趣旨としまして、これからの10年間を見据えて、仙台に関わる私たちが知恵や技術を持ち寄ってチャレンジしていきたいプロジェクトであるということをお示しております。

なお、前回の資料では「重点プロジェクト」という名称でございましたけれども、「重点」という名称は予算の重点化と誤解を受ける可能性があるのではないかというご意見を「地域とくらし部会」からいただいているところでございます。

また、かねてから議論してまいりましたこのプロジェクトの趣旨は、やはり私たちがチャレンジをしながら取り組むプロジェクトであるということでありましたので、名称を今回「チャレンジプロジェクト」として修正したところでございます。

その下の「Ⅳ 分野別施策一覧」でございますが、ここは行政としての仙台市が多様な主体の方々と連携しながら取り組む施策の方向性を網羅的に示す部分でございます。これまでのご説明の中でも、分野別施策一覧は行政の施策の網羅集であるということで、前回のいわゆる重点プロジェクトに関する取り組み以外の施策も含まれている、と整理してまいりましたけれども、基本的にその考えは変わりませんが、よりこれまでのこの審議会での議論に沿って改めて整理しますと、8つのチャレンジプロジェクトを進めるうえで、行政たる仙台市が行う施策もこの施策一覧の中には含まれておるところでございます。また8つのチャレンジプロジェクトの推進とは直接かわりがない取り組みもありますが、そういったものもこの分野別施策一覧の中には含まれているということでございます。

「Ⅴ 区別計画」はそれぞれの地域特性を踏まえた、5区の地域づくりの方向性を示すものとしております。

こういった形で計画策定の考えとそれに基づく構成を改めて整理したページを差し込

んだところでございます。

次に6ページをご覧ください。6ページの中の「The Greenest City SENDAI」につきましては、前回、「For The Greenest City Sendai」と表記していたところでございます。ここにつきましては、「for」ではなく「toward」のほうが適切な表現ではないか」とのご意見があったところです。この点につきましては、その後 for と toward の違いについても事務局でも改めて使い方であるとか、ニュアンスについて調べたところではございますけれども、やはりニュアンスについてもさまざま調べるに至りまして、いろいろな考え方が見受けられたところでありまして、なかなか for と toward とそのほかというところで、事務局としてもちょっと考えが定まらないというところでございます。

また、「toward」というワードにつきましては、一般市民の方々がパッと見てそれが分かるのかということについては、やはり「for」よりもハードルが高いのではないかとというようなこともありました。整理がまだ十分しきれていないというところで、本日はそのワードは一旦取って、「“The Greenest City” SENDAI」ということでお示しをさせていただいているところでございます。引き続き検討してまいりたいと存じます。

続いて7ページをご覧ください。都市個性の環境に関しての、これまでの歩みの部分につきまして、前回、里山など西部地区を含め全体を俯瞰しての都市構造自体が杜の都であるというようなご意見をいただいたところございましたので、2行目の後段になりますが、「郊外の寺社並木、丘陵地の森林、海手の農地へと連なり、街全体を緑で包む様相を呈していました」というようなところを追加させていただいたところでございます。

また、グリーンインフラに関しましても、前回、より充実させていくものであるというご意見を頂戴しましたことから、「未来へ」の部分に「グリーンインフラを充実させ」という文言で修正させていただきました。

続いて10ページをお開きください。都市個性、活力のこれまでの歩みについて、前回、「地下鉄による十字の都市軸によるまちづくり」という視点が記載されていないのではないかとご指摘がありましたことから、今回、中段部分になりますけれども「都心部だけでなく、東西南北に走る市営地下鉄や鉄道の沿線では人の集住が進んでおり」というような部分を追記したところでございます。

続いて11ページをお開きください。こちらのイメージ図につきましては、「地域とくらし部会」におきまして、この樹木、絵のトーンがフワッとしていまして、「挑戦というイメージと絵のトーンが合っていないのではないか」とのご指摘を頂戴したところでございます。今回はこのまま、前回通りでお示ししておりますが、今後、基本ベースは生かしつつ、デザイン等を修正してまいりたいと存じます。

続いて12ページをご覧ください。冒頭のところに先ほど申し上げたチャレンジプロジェクトの趣旨を丁寧に追記しました。また、「地域とくらし部会」では「SDGsの記載内容が見づらいので見やすくしてはどうか」というご意見がありましたので、少し大きく記載するというところで修正をしたところでございます。

続いて13ページをお開きください。ここからがそれぞれのプロジェクトの内容となっておりますが、まず8つのプロジェクト全体に共通する修正点をご説明させていただきます。

前回、プロジェクトの名称の右側に、それぞれ都市個性の掛け算があったところがございます。例えば 13 ページの「杜と水の都プロジェクト」では、環境×活力というところで、主な都市個性の掛け合わせをお示ししていたところがございますけれども、「地域とくらし部会」におきまして、都市個性の掛け算の表記が必ずしも 2 つに限らないのではないか、3 つ 4 つと掛け合わされているプロジェクトも実際にはあるというところで、それらの掛け合わせは、先ほどの 11 ページの概念図で十分示されているので、記載しなくていいのではないかとのご意見がありましたことから、その掛け合わせの表記はすべてのプロジェクトから削除させていただいているところがございます。

それから、実施の方向性のところですが、それぞれの記載内容については、前回レベル感が合っていないというご意見を頂戴しました。今回、全体を見直しまして、前回は適宜かつこ書きでより例示などを書いていたところがあったのですけれども、そういったところもすべて記述を揃えました。レベル感を揃えたところがございます。

また、可能な限り、分野別施策から漏れがないかというところもご指摘がありましたので、そういったところも含めて整合性を図ったところがございます。

前回、それぞれのプロジェクトごとに掲載しているデータについても、関係するものがまだまだあるのではないかとこのようなご意見を頂戴しました。この点につきましては、それぞれのプロジェクトのページには、実施の方向性に関連性がより深いデータを掲載させていただきますが、その他のさまざまな関連データにつきましては、資料編として最後にまとめていきたいと考えておりまして、今整理をしているところがございますが、審議会全体会で今後お示しをしまいたいと考えております。ここまでが 8 つのプロジェクトすべてに共通する修正点となっております。

次に、個々のプロジェクトに関する主な修正点についてご説明します。13 ページの「杜と水の都プロジェクト」の名称ですが、前回は「杜と海の都プロジェクト」でございました。これにつきましては、広瀬川など親水空間の活用なども踏まえた表現とすべきとのご意見をいただきましたので、「杜と水の」という形に修正させていただきました。

続いて 16 ページをお開きください。「防災環境都市プロジェクト」。こちらの実施の方向性のうち、3 つ目の「防災・減災の備えを日常に浸透させる」、この内容に、1 つ目のポツの説明のところで、非常時の例示として自然災害のほか、感染症を追加しました。これは、前回「地域とくらし部会」で新型コロナウイルス対策などの必要性に対するご意見をいただきましたので、今このような情勢でもございますので、自然災害だけでなく、「感染症などの」ということで例示に追加させていただいたところがございます。

それから 29 ページをお開きください。分野別施策一覧についてでございます。ここにつきましては、前回までのご議論を踏まえまして、改めてこの分野別施策一覧の位置付けを明確化する文章を最初の 2 行にまとめたところがございます。

その位置づけにつきましては、先ほどご説明した通りでございまして、行政である仙台市の施策を網羅的にまとめたものでございます。ここにつきましては、やはり目指す都市の姿の実現に向けて取り組むというところは、重点プロジェクトとは変わらないところがございますので、目指す都市像ごとにそれぞれの施策を分類するという形でまとめたところがございます。

最後に 41 ページをお開きください。「持続可能な行政運営」のところでございますが、新たに 3 つめのポツとしまして「危機管理の推進」、こちらを追記いたしました。前回、先ほど申し上げたように「地域と暮らし部会」において、新型コロナウイルス対策に関するご意見をいただいたこともありますし、またこの間、地震はもとより、大雨・台風などが頻発する状況を踏まえ、危機管理の推進の重要性を認識しまして、ここの部分を追加したものでございます。

以上が資料の主な修正点でございますけれども、この間、仙台市では 2 月から 3 月にかけて、第 1 回定例会、議会が開会されておまして、この総合計画に関しても複数の議員からご質問を頂戴したところでございました。資料はないのですけれども、ご説明をさせていただきたいと思っております。

まずは The Greenest City SENDAI。こちらについてのご質問が複数の委員からあったところでございます。この趣旨は何なのかというところと、Greenest City が示す具体的な都市の姿はどんなものなのかというところについてご質問がありました。こちらにつきましましては、資料に基づきまして私のほうで答弁申し上げたところでございます。

また、商工会議所様からいただいた「チャレンジシティ」。こちらについてもご質問を頂戴しまして、チャレンジという姿勢がやはりこの総合計画の姿勢と一致しているのではないかと、いわゆる整合性・関連性についてのご意見も頂戴したところでございました。

それから市民参画としまして、若者の意見、これらをより聴取しやすい取り組みが必要なのではないかというところについてもご意見を頂戴しました。

これにつきましては、先ほどの区別計画の参画事業でも申し上げた通り、仙台市のほうとしても意識はしておりますけれども、今後、パブコメなどもございますので、若い方の参画もいただいてまいりたいというところでございます。

以上が定例会での質疑のご紹介でございましたけれども、今後も定例会でのこういったやり取りにつきましては、適宜ご紹介させていただきたいと思っております。

#### ○渡邊浩文部会長

ご説明ありがとうございます。いくつかの修正が施されているということではありますけれども、冒頭お話しした通り、今回がこの部会の最後ということでございます。今日のこの部会としての目標というのは、現時点での案ということでもありますけれども、とはいうものの、この現時点での案というものを「確認した」というところがゴールではあるということになろうかと思っております。

どこが主に変更されたかということについては、今のご説明にもあった通り、いわゆるチャレンジプロジェクトです。前回までは重点プロジェクトと言っていたところが、チャレンジと名称が変わったというところのみならず、目標を再チェックし、特に右側のページの実施の方向性を注意して直されたというようなご説明でありました。

まずはご議論をいただく前に、こんな感じで今日は進めますという説明をしますので、その間に皆さん是非ご意見・ご質問等のポイントも確認していただければと思います。

まず、Ⅲ章になると思いますが、12 ページから始まっているチャレンジプロジェ

クト。ここからまず審議を始めて、その後に計画全体の立て付けの話ということで、「I はじめに」の5ページ目の計画全体の構成図に戻って審議をします。挑戦を続ける新たな杜の都、そしてThe Greenest Cityというまちづくりの理念と都市像の実現に向けてというところと、この8つのチャレンジプロジェクト、そして後ろのほうの分野別の施策というところがきちんとつながっているというところを、この図が説明しているというところではあります。ですので、この5ページの全体図と第II章の「新たな杜の都に向けて」という都市個性の部分、ここをセットでチェックするというように進めていくと良いかなというふうに思っています。

もちろんこの部分は、我々の部会だけでなく、全体会の方にも関わるところですので、全体会の方でも改めて審議するというところに当然なるわけですがけれども、今日は最終回ですので、なるべく当部会としての意見なりまとめなりをしたいというふうに思っております。

主にはこのIIIを最初に議論して、I、IIというところではあるわけですがけれども、IVの分野別施策。これも一覧という感じのものでありますが、審議が進んできて、こういったところにもご意見が少しずつ増えてきたと思っているところですので、なるべく「IV 分野別施策」のところについても今日は少しでも時間を取ればと思っております。

残りのパートについては、時間が余ればというところに留めたいと考えています。残りの部分というのは、「I はじめに」「V 区別計画」「VI 総合計画の着実な推進」そして今のところは何もないですが「VII 資料編」です。ここは全体会になるべく議論は取っておいて、今日はIII、II、IVの辺りに重点的に時間を割いて検討していきたいと思うところです。

それでは早速ですが、「III チャレンジプロジェクト」の審議を進めていきたいと存じます。12ページ以降です。8つのプロジェクトが①から⑧までありますけれども、当部会の所管ということで求められているのは、①、②、⑦、⑧の4つでございますので、この4つのプロジェクトのそれぞれの目標、それから実施の方向性、こういったところを中心に、時間的にはこの4つをおおよそ15分ぐらいずつということで意見交換を進め、最終的に意見のまとめ、もしくは修正点の確認を行うということで進めていきたいと思っております。

もちろん、審議がスムーズに進んで時間があるようであれば、そのほか、「地域とくらし部会」のほうで主として議論して下さっている③、④、⑤、⑥についてもご意見があっても良いかとは思っています。

ではまず、このチャレンジプロジェクト。12ページには全体のところが書いてあり、かつSDGsのところを少し丁寧に書き加えたということですので、ここはさっと確認したということにいたしまして、13ページ、14ページにありますチャレンジプロジェクトの「① 杜と水の都プロジェクト」について議論していきたいと存じます。

ご意見・ご質問等々ある方はまずは手を挙げていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。飯島委員、どうぞ。

#### ○飯島淳子委員

2点教えていただきたく存じます。1点目は、前回のバージョンに比べますと、誰が関

わるのかということを中心に、あるいは明確化してくださったのではないかと理解いたしました。例えば、14 ページの 02 で「利用者」「誰もが」、03 で「市民や観光客」となっていて、誰が関わるのか、メッセージとして出したいということだとは思いますが、これが本当にメッセージになっているのか、まだよく分かりません。例えば 03 の「観光客」が施策の中にきちんと反映されているのか、まちづくりの理念を共有して実践していくためのメッセージとして発されているのかということを確認したいと思います。また、主体が明示されていないものについては、行政主体としての仙台市が実施するという理解でよろしいのかも、教えていただけますと幸いです。

2 点目は大変細かくて恐縮ですけれども、杜の都という言葉について、カギ括弧が付いているものと、付いていないものがあります。おそらく自覚的に使い分けられていると思いますが、The Greenest で、新しい意味を込めるという意味でカギ括弧を付けている箇所もあるかもしれません。数えたところ 9 箇所ございましたけれども、使い分けを教えてくださいたいと思います。

#### ○渡邊浩文部会長

いかがでしょうか。

#### ○松田政策企画課長

まずプロジェクトの実施主体につきましては、12 ページの一番下になりますが、包括的に「私たちが見たい未来を、私たち自身の手でつくっていきます」、この私たちとは誰かというのが、遡りますと 3 ページの上のところにあるわけございまして、「私たちとは、この計画を共有し、ともにまちづくりを進めるすべての方々のことをいいます」というような形になっていますので、プロジェクトの実施主体は「私たち」ということになります。

それぞれの実施の方向性ごとに主体を書き分けてはいなくて、それは、書き分けられるものではないのではないかと思っているところです。

行政が主体として行うものはご指摘の通り、分野別施策一覧のところに書いておりますけれども、決してそれだけでまちづくりが進むというわけではなくて、市民の方たちが自主的に何かを行うということ、企業の方が例えば市民と組んで何かをするということも今後 10 年間のうちにはさまざままちづくりの中で出てくる可能性があると思っておりますので、プロジェクトの主体は「私たち」というところで留めておきまして、それぞれごとの役割で決めるという形にはしていないところでございました。

具体的にご指摘のありました「市民や観光客が憩い、楽しめる親水空間の構築」というのは、市民や観光客が楽しめるというところにこの言葉が掛かっているところでございました。少し分かりにくかったかもしれません。施策を進める主体というよりは、こういう人たちが楽しめる親水空間ということでお示しをしたところでございました。

それらにつきましては、分野別のところでいうと、31 ページにありますけれども、水辺の環境づくりというようなところに主に入ってくるものと考えております。

それから、杜の都にカギ括弧が付けてあるところにつきましては、意図的に杜の都というブランドを象徴づけて書きたかったところについてカギ括弧を付けておるところでござ

ございますけれども、今、飯島委員から「9箇所ある」というところにつきまして、改めてカギ括弧が抜けていないかどうか、それからきちんと区別されて付けられているかというところにつきましては、次回精査してまいりたいと思います。

○渡邊浩文部会長

飯島委員、よろしいですか。どうぞ。

○飯島淳子委員

ありがとうございました。たしかに「私たち」ということなのですが、ただ、せっかく計画を使って、まちづくりの理念を危機感も含めて共有し、実践していくという、いわば実効性も含めて、この人にこうだということで整理してくださったのかと読んだものですから、「私たち」というと、ここに関わるすべての人ということになりますので、「ちよっともったいない」とは思います。

○渡邊浩文部会長

ほかはいかがでしょうか。竹川委員、どうぞ。

○竹川隆司委員

2点ほど。これは提案に近いかもしれないのですが、1つは左上の目標というところ。「杜の都の文化に巡りあえる都市空間をつくる」ということですが、その後の文章の部分を読んでいると、「自然と調和した」など、「文化」だけでなく、結構「自然」の話が出てきています。それを考えると、目標の部分が「文化」に巡り会えるだけでよかったのだろうか、というのが1つ感じた点でございます。

例えば、「杜の都の文化と風土に巡りあえる都市空間をつくる」とか、何かその環境というか、まちや人の温かさみたいなものが表れるものがこの目標の言葉の中に入っているといいのではないかと思います。文化だけでいいのかというのが1つの疑問でした。

もう1つ、14ページは整理の仕方に近いのですが、02と03のところでは緑と水辺を無理に分けて整理しないほうがいいのではないかとというのが感じた点でございます。「杜と水の都プロジェクト」に表現されている通り、緑と水辺は一緒に生活空間とか、人が集う空間として楽しめるものだと思うのです。ですから、緑と水辺を楽しめる生活空間みたいなことでいいのではないかと。もっと言うと、02と03の上のほうは、どちらかというと住む空間の話をしていて、02の下のポツと03の下のポツのほうはどちらかというともう少し動的な話をしている気がしています。

結論としては、緑と水辺を楽しめる空間というのを1つのフレーズに持ってきてしまって、02の上のポツと03の上のポツをまとめて、02と03の下のポツは、杜の都を生かした魅力の創出みたいな、別の項目に整理したほうが、整理として付くのではないかと私は個人的に感じました。

主旨としては、緑と水辺をどうして分ける必要があったのかというところで、それは生活空間などと一緒にしてしまったうえで、それを生かしての魅力づくりとしての賑わいの

創出とか、それを生かす人、機会の創出という整理をしたほうが私にとって少し分かりやすくなるかと思いましたが、1つご提案として投げさせていただきます。

○渡邊浩文部会長

というご提案ですけど、何かすぐにパッとコメント等々があればと思いますが。

○松田政策企画課長

最初の「杜の都の文化に巡りあえる」、その文化というところがその下の目標の具体的な、いわゆる都市空間は目に見えるものとマッチしてないのではないかというご指摘かと思いました。

そこにつきましては、たしかに文化に巡りあえるというのは少し抽象的な表現かなとご指摘を受けて思いましたので、どのような表現がいいのか今すぐには出てこないのですけれども、ご指摘・ご提案いただきました風土というワードも含めまして、よりこの目標を端的に示すフレーズを考えたいと思います。

それから、杜と水辺を分けた趣旨につきましては、私どもの行政としての至らなさが少し表面に出ているところなのですけれども、杜の都につきましては、もうずっと仙台市として取り組んできたというところがございますが、水辺の空間づくりというのはまだ十分ではないというところと、目下、やはり東部沿岸地域におけるまちづくりが動いているというところはどうしても意識が行きましたので、分けるというよりは、水辺は水辺できちんと取り組んでいくというところをお示ししたいがために、このような表記になっているところではございました。あえて分けたというよりは、水辺も力を入れていくという意気込みがここにあるというふうに思っておりますけれども、どのようなまとめ方がいいのかというところは、即答は難しいのですが、もしご意見を頂戴できれば参考にさせていただきますと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。舟引委員、どうぞ。

○舟引敏明委員

結構、よく整理をしていただいているので、大体何とかうまくいっているのではないかと思いますのですけれども、一番説明がほしいのは、すみません、12ページに戻ってしまうのですが、プロジェクトというのは何ですか、という説明があまり明確にされていないのです。

前のページの概念図でこのように区分するというのは分かったのだけれど、ではなぜ8つのプロジェクトをあらかじめ抜き出しているのかという点をどう書いていくかということ、もう1つ書いていないのがその前のページの4つの分野と8つのプロジェクトの関係が書かれていないので、ここでかなり唐突感があるなと思います。

要するに読み手としてロジックがうまくつながってなくて、4つの分野まで上手く収斂したのだけれど、そこから8つのプロジェクトに行くところのロジックをもう少し分かりやすく、ここを丁寧に説明されないと、つながらないかと思います。

これはたぶんその次の具体的な分野ごとの施策と何が違うのですかという部分も、事務局の頭の中にあるものをもう少し読み手に説明していただいたほうがいいのではないのでしょうか。

中身に特に異論があるわけではないです。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

○松田政策企画課長

チャレンジプロジェクトの趣旨については、冒頭にご説明した通りでございますけれども、なぜチャレンジが必要なのか、そしてなぜこの8つなのか、4つの都市個性とはどのような関連付けがあるのかというところは、分野別の施策一覧は目指す都市像に向けてこれをやっていくというところがはっきりしたがために、このプロジェクトと目指す都市像との関連性とかが少し希薄な記載になっていますので、ちょっと分かりづらくなっているところもあると思います。

明確に都市像ごとに分けられるかどうか、改めて検討させていただきまして、少なくとも分野別施策とは何が違うのかというところにつきましては、より分かりやすいようにお示ししていきたいと考えております。

○渡邊浩文部会長

ほかはいかがでしょう。

では少し進めましょうか。姥浦委員。

○姥浦道生委員

今のご意見にまったく賛成でございます。そこでチャレンジプロジェクトと、分野別施策一覧の一番大きな違いは、行政かそれとも我々か。我々というか、市民も含めた人たちかと。たぶんそういう整理だとは思うのですけれども、それがおそらく次回で出てくると思うのですが、そうした時にやはり重要なのが、誰が何をするのかというところがもう少し明確にあったほうが、その区別というか差が出るのではないかなという。飯島先生の最初のご指摘にかなり近いですが、そういう気がしています。

最終的には計画というのは、いつまでに誰が何をどういうふうにするのというところまで書き込むのが本当は素晴らしいのかもしれませんが、そこまでは当然難しいとしても、何かそういうものがもう少し見えるような形にしたほうがいいのではないかというのは、全体の構成について思ったところです。

あとは細かい話ですけど、13ページの右下の図ですけれども、何かあまり活性化しているような感じがしない図になっているかと思っておりますので、空白ではないような図を使っただけだとありがたいという気がいたしました。

○渡邊浩文部会長

よろしくお願いたします。いかがでしょうか。  
館田部会長代行、どうぞ。

○館田あゆみ部会長代行

ここで言おうかどうか悩んだのですけれども、どのプロジェクトも実施の方向性のあたりになると、具体的な記載になって、とても仙台らしいものもあれば、どこの都市でもこんなこと書いているだろうというようなものも出てきていますので、Greenest というのが、どこかにあるといいのではないかと考えています。

難しいと思うのですけれども、この中でも例えばこれは最上級を目指して取り組んでいきますというか、他の都市にない、「仙台はこの中のトップを目指します」みたいなもののがもし得られるのであれば、その中に葉っぱのマークを3つ付けるとか、唐辛子が辛いと5つ付いているとかよくありますけれども、あのような感じで、ここは Greenest の表現をしていくのだというのが、各プロジェクトに1つか2つ選べたりすると Greenest らしくなるのかなと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。事務局から何かありますか。

○梅内まちづくり政策局次長

うまく答えられるかどうかちょっと分かりませんが、先ほどからご意見がありますように、8つのプロジェクトと4つの都市個性、そしてそれが Greenest につながるという部分の、舟引委員からもありましたけど、11ページと12ページの間のつながりというのでしょうか、その辺りがまだ分かりにくいという議論は事務局の中でもありました。

今、館田部会長代行からもありましたように、Greenest と実施の方向性のつながりについても、そのような中で整理をすることが必要なと、お話を聞いていて思っております。

また、先ほど飯島委員からありました主体の話ともつながるのですけれども、「プロジェクトとは何ぞや」ということで、プロジェクトというところは、他の個別分野と比較しても、複数部局で関連して地域の課題を解決していかないと本当の課題解決にならないということもあり、組織が縦割りであるということはどういうふうに絡めていこうか、行政内部の実行計画としては非常に悩むところもございます。地域の皆さんと一緒に取り組むもの、企業の皆さんと一緒に取り組むものということはもちろんなのですが、そのほかに複数部局のほうでこのチャレンジプロジェクトごとに有機的な連携をしながら取り組んでいくという、市役所の組織の中でもそういった取り組みをしていくための仕組みとしてどういうものが必要かという議論を今、行っているところでございます。

先ほどから指摘がありましたように、本来はそこに市民の皆さまとこういうことを取り組むとか、役割をすっかり書き込めればいいのだと思うのですけれども、当面のところというのは念頭にありつつも、やはり10年の計画ということもありまして、施策の方向性のところで主体がどこだという記載などは、少し書きにくくなっているところがあると思っております。

全体会以降では、推進の方向性という章について、もう少し書き込んでいきたいと思っております。その中でご議論もさせていただければと思っております。先ほどの関係性については、もう少し検討させていただきたいと思っております。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。よろしければ②のほうに進めたいと思います。

では、「② 防災環境都市プロジェクト」。15 ページ、16 ページになりますが、こちらについての審議に移りたいと思います。これもご意見等々がある方は、まずは挙手いただければと存じますが、いかがでしょうか。

菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

16 ページの 03。1 つめのポツの中の 2 行目に「自然災害や感染症などの」と、今回の新型コロナウイルスも含めた感染症の記載については了解しました。そこをよく見てみると、自然災害と書いているのですが、災害は自然災害だけなのでしょうか。いわゆる武力攻撃事態も災害なのです。ミサイルが飛んできたりなどの有事ですね。そういうところのために行政は国民保護の計画を策定しています。ですので、自然災害というふうに限定的な書き方は良くないのかなと思います。話が飛びますけど、同じく 41 ページも書きぶりを自然災害というふうに限定することは漏れがあるのではないですか。

全体をパッと見ていった時に、防災環境都市仙台ということを書かれているのだけでも、私たちはあの災害を経験して、仙台市議会として防災・減災のまち推進条例をつくりました。そしてその条例では 3 つの理念を掲げました。その 1 つ目が、自助・共助・公助の理念なのです。それぞれの役割を果たしましょうと。2 つ目が未来に伝承し、内外に啓発・発信しましょうと。そして、3 つ目の理念が、防災の取り組みを通してより良い地域社会を形成しましょうと。これはたぶん仙台市独自で、日本でも世界でも例がないと思うのだけでも、東日本大震災であれだけもったのは、町内会の加入率が 80 数パーセントだったということがいろいろな研究者の話の中でも、あるいは行政の評価としてもあります。今は加入率が少し下がってきているので、市民局としては市民協働やこれからの税財政の厳しさもそういうところでカバーしていきたいという思いがあるはずで。

だけど、このコミュニティ形成に関して全体を見た時に少し薄いなというのがあります。それを考えた時に③の中に、やはりさっき言った条例の 3 つ目の理念。防災の取り組みを通じて、より良い地域コミュニティを形成していこうというふうにあの時にいろいろな議論があつてつくられているのです。これは仙台ならではです。防災では人が集まる、命を守るために普段関係の希薄な人々も心を寄せ合い、手を携えると。あれは仙台市として誇るべき理念の 1 つだし、それはこの防災環境、環境というのはいろいろな意味があると思うのだけでも、その中の大きな根っこの部分というか、土台の部分になるのではないかとと思うので、そのコミュニティ形成が全体として書いていないということと、書くのであれ

ば③の中に今申し上げたことを記述することが、これまでの9年間の取り組みの中で、私たちが残してきた、あるいは発信した大きな要素ではないですかということをお願いしたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

○松田政策企画課長

まず1つ目の自然災害の記載については、検討させていただきたいと思います。あらゆる災害を想定した形の記載ということでありましたので、その方向で検討させていただきたいと思います。

2つ目が地域の力で防災力を高めるということのまた逆方向のお話だと思います。防災に関わるということがいわゆる地域コミュニティをより強めるというような考え方について盛り込んだほうがよろしいのではないかというご意見でした。

ご指摘の通り、そこは仙台市のあの震災を経た強みというところでございます。例えば7ページの環境のところの都市個性の説明の中でも、「未来へ」のところでございますけれども、中段に「住みよい暮らしの実現のために、市民一人ひとりの力で困難を乗り越える「杜の都」の理念」というところについても、地域コミュニティという言葉は使っておりませんが、そこも若干意識したところがあります。

次の8ページの共生のところについても、中段のところ「東日本大震災発生時には町内会等々の力が復興の推進力になりました」というところで、いわゆる地域コミュニティと防災というところの関係性については一定程度、これまでの歩みについて記載させていただいているところでございます。

防災に取り組むことが地域コミュニティに資することだということにつきましては、防災という形での特出しはしてございませんけれども、例えば4つ目の「地域協働プロジェクト」のところ、20ページの実施の方向性の一番上、「多様な協働が生まれる仕組みをつくる」という、こういったところにも防災に取り組むことによって地域コミュニティが強化されるというところの意味合いは少し読み込めるものかとは思いますが、そこを仙台は防災というところが仙台の特色なのだということのご指摘と受け止めたので、防災環境都市プロジェクトのところはどういう形で盛り込めないか検討させていただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。榊原委員、どうぞ。

○榊原進委員

16ページの02「公共交通機関等の環境に優しい移動手段の確保と利用促進」なのですが、その中に自転車というものがあって、環境に優しいところもあるし、都市の移動手段として都市インフラの1つとも考えられます。この間聞いたお話では、ほかの都市では新

型コロナウイルスの影響で自転車の売り上げが伸びているというところもあるようなことを伺っています。逆に言うと、今こういう状況で公共交通に乗りたくない人たちが自転車の移動を見直しているというのもあるようなのです。

自転車を都市インフラとみなせば、まさにこの項目に記載されていますが、分野ごとの施策方向性の 34 ページに、安全・安心の側面だけの自転車しかないのです。環境的な側面とか、都市インフラとしての自転車という表現がなくて、ここはたぶん先ほどの縦割りの行政のところが如実に出ているなど思っているのはいいので、表現がなかなか難しいのですが、分野を横断してやるプロジェクトであれば、ここにあってもいいのですが、安全・安心だけに自転車があるというの少し違和感があります。その辺の表現も留意してほしいなというふうに思い、ご提案でございました。

○渡邊浩文部会長

事務局、よろしいですか。

○松田政策企画課長

分野別の施策の方向性のところですが、この施策をどの分野に置くかというところは実は非常に事務局でも悩んでおまして、実は1つの施策でも見方によってはいろいろなところに資する形になっています。

それこそ、全部が再掲になってしまうというところはあるのですが、ただたしかに自転車走行空間の確保というところでプロジェクトに書いておきながら、それを受けるものがないというのはたしかにちょっと落としていたところかと思しますので、そのところは改めて追加させていただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

舟引委員、どうぞ。

○舟引敏明委員

細かいことで恐縮です。方向性の 03 の1つ目のポツ。防災の主流化とはどういうことだろうか、それを推進するとはどういう意味なのだろうかというのが分からない。

その次の防災の国際標準化というのもよく意味が分からないし、防災産業とは何だろう、それをさらに推進するというのはどういうことだろうか。

最後のパラグラフでは、自然災害とか感染症などを想定しているにもかかわらず、あらゆる危機にやらなくてはいけないという言葉が分からないので、この辺の言葉をもう少し整理したほうがいいのではないかと思います。

○渡邊浩文部会長

よろしく願いいたします。

○松田政策企画課長

内部で使っている言葉をそのまま載せてしまっているのも、やはりそういったところは委員の方々からのご指摘をいただき、ハッと我に返るところでもありますので、より丁寧な書き方にさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

○渡邊浩文部会長

姥浦委員、どうぞ。

○姥浦道生委員

細かいことについてですが、防災環境都市で、まず防災と環境はどういう関係なのだろうというところが書いてあるのが、目標のところの3行目、「杜の都の豊かな環境と…防災力が重なり合う防災環境都市」ということなのですが、これは具体的にどういうイメージなのかというのが少し分からない。

書いてあることは非常に素晴らしくてなるほどと思うのですが、具体的にこれは何なのだろうと言われると、よく分からなくて、それがこの実施の方向性のところを見ると、グリーンインフラのあたりなのかという気もするのですが、それぐらいなのかという気もいたします。この辺りはどういうイメージを持っていらっしゃるのかというのを教えていただきたいのが1つです。

後は細かいことで、防災環境都市で、防災が非常に重要、防災は仙台だというのであれば、実施の方向性に重要なものから01、02、03とやったほうが良いような気がします。そうすると03の防災を頭に持ってきたほうが分かりやすいのではないかなという気がいたしました。以上2点でございます。

○松田政策企画課長

「防災環境都市とは何か」というところの説明が十分ではないというところかとは思いますが、環境に資する取り組みがいわゆる災害を抑制する、もしくは減災につながるというような、大きく言うとそういうところではあるのですが、具体的にはEco-DRRの考えであるとか、いわゆるグリーンインフラのところはその代表的なところであります。例えば地球温暖化対策など環境に資する取り組みをすると、それが豪雨を抑制することにも将来的にはつながるのではないかなというようにところで、環境への取り組みが結果的に防災にも資するというところを、いわゆる掛け算の考え方で防災環境都市というふうにつくっているところでございます。ただ、これもすみません、自分たちでは分かっているところではあるのですが、説明が十分ではないというところがありますので、文章で書くのがよろしいのか、どういう形でお示しするのがいいのかというところはありますけれども、より市民の方が分かりやすいように工夫させていただきたいと思っております。

それから実施の方向性の掲載順序につきましても、併せて検討させていただきたいと思っております。

○渡邊浩文部会長

いかがでしょうか。渡辺敬信委員、どうぞ。

○渡辺敬信委員

実施の方向性 02 の「持続可能な都市インフラをつくる」の 1 ポツ目です。「公園・農地・樹林地を活用した雨水の保水・浸透、道路や公共施設等の改築や更新に合わせた貯留浸透機能の向上」と書かれております。もちろん道路とか公共施設の改築とか更新に合わせて貯留浸透機能を向上させるということなのでしょうけども、まずこの適切な維持管理がなされてなければ、これはたぶん成し得ないのではないかなと思うのです。この辺のことについてはどのようにお考えになっているのか。適切な維持管理という文言も加えたほうがいいのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○松田政策企画課長

ご指摘のあった維持管理は非常に基本中の基本だというふうに考えております。ここのプロジェクトに載せるのがいいのか、分野ごとの施策ということで、行政としてそれは当然やっていくべきことだということに載せるのがいいのか。そのところは表記の仕方も含め、検討させていただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。渡辺敬信委員、どうぞ。

○渡辺敬信委員

前に戻ってしまうのですけども、14 ページの実施の方向性 02 の「緑を楽しめる生活空間をつくる」というところですけども、「利用者のニーズに応じた魅力ある公園づくり」となっておりまして、その下には「民間活力や市民のアイデアの導入」ということが書かれているのですけども、公園といってもさまざま。大きな都市公園から、それこそ地域にある街区公園とか、そういったところもあると思うのです。これをすべて一括網羅したうえで公園と位置付けているのか、それともこの公園とは都市公園、例えば榴岡公園とか、あのような都市公園を指した公園なのか、その辺が少し分りにくいのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○松田政策企画課長

ここでは公園というのは特段、街区公園、都市公園の区別なく書かせていただいているところでございます。

10 年間の計画でございますので、今、PFI 等の導入をしているのは大きな公園にはなりますけれども、10 年後はどうなるか分からないというところもありますし、小さな住宅地の中の公園であっても、今住民の方の意見を取り入れてリニューアルしているような取り組みも仙台市のほうでは進めているというところがございます。

そういったことも全部含めて利用者のニーズに応じた魅力ある公園づくりというところで受け止めているところがございますので、公園の中で特段の区別はしていないところでございます。

○渡辺敬信委員

公園によっては、例えば野球場などが併設されているような公園などもあります。こういった公園も例えばその市民のアイデアをどんどん導入していくのか、それともさまざま今申し上げた街区公園のほかにもそういったいろいろなスポーツ施設を兼ねた公園などもあります。そういったところも含まれているのか、もう一度確認させてください。

○松田政策企画課長

将来的な 10 年間のうちの可能性ということに関して言えば、公園を今限定はしていないところでございますが、今ご指摘のありました、ではそういう取り組みを仙台市はいつからするのかとか、そういう具体的なところまではお答えは難しいところではありますが、公園というのはすべて含めた形で今は記載させていただいているところでございます。

○渡邊浩文部会長

よろしいですか。いかがでしょうか。

ではまだご意見があるかとは思いますが、今日は最終回ということが私にとっては結構プレッシャーでございまして、一通り見ないわけにもいかないものですので、まずは進めさせていただいて、そのうえでさらにということであればご意見等々を賜るというように進めさせていただきたいと思っております。

ということで、我々が部会の所管という意味では、次に取り上げるべきは 25 ページ、26 ページにある「⑦ TOHOKU チャレンジプロジェクト」。チャレンジプロジェクトにチャレンジプロジェクトがあるのですね。というふうに僕も思いましたが、これについて審議を深めていきたいと思っております。まずここもご意見等々、ご質問も含めてですが、まずは挙手していただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

竹川委員、どうぞ。

○竹川隆司委員

3点ありまして、1つは今まさに部会長に突っ込んでいただいた重点プロジェクトがチャレンジプロジェクトになった瞬間に、ここの TOHOKU チャレンジプロジェクトという名前が浮いてしまうというところが気になったところでございます。

だからといって代案が思いついていないわけではないのですけれども、せめてチャレンジ応援プロジェクトなどにするか、もしくはモデル創出プロジェクトとか別の名前にした方がいいのではないかと感じました。

2点目はより重要な点なのですが、目標に「世界で競争力のあるビジネス環境を東北につくる」とあって、ちょっとこの言葉だけを見ると世界中からいろいろな起業家が集まるようなビジネス環境を東北につくるということなのかなと思うのですけれども、ただ実施の方向性等を読んでいくと、どちらかという世界に発信できるようなビジネスモデルとかロールモデルをつくらうという話をしているような気がしています。そうすると目標自体が世界に発信できるビジネスモデルを東北でつくるのか、何かそういう形に整理された

ほうがいいのではないかなと思いました。

今のままだと、どちらかというとイノベーションが生まれる場所をつくったので皆さん来てくださいと言っている気がするのですけれども、そうではなくてたぶん社会課題とか、イノベーションの種を生かして東北でつくったビジネスモデルとかロールモデルというのを世界で発信できたらいいのではないかなということだと思いますし、そうあるべきだと思いますので、そこは目標自体の言い方を少し変えられるといいのではないかなというふうに思いました。

最後に、01の「東北を舞台にイノベーションを生み出す」というところに産官学連携みたいな話をもっと入っていたほうがいいのではないかなと思いましたので、それは1つ追加として挙げさせていただきます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

○松田政策企画課長

チャレンジプロジェクトのこの名称、そして目標がこの実施の方向性とよりフィットした書き方にすべきということについては、宿題として検討させていただきたいと思います。

産官学連携のところを入れ込むところにつきましては、「私たち」という主体の中に包括的に入れているつもりではいましたけれども、このプロジェクトについては、それを特出ししたほうがよろしいのではないかなというご指摘と受け止めましたので、改めて検討させていただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

今委員、どうぞ。

○今里織委員

今のところなのですけれども、印象としては世界に東北を発信していく。その中で仙台があるところを発信していくというのは、すごく理解していて素晴らしいというか素敵だなと思ったのですが、世界の前に日本があってもいいのかなと思います。突然世界に飛んでいるような気がしてしまったので、「日本に、そして世界に」みたいなそういう羽ばたくイメージのほうがよりイメージしやすいかなと思った次第です。

○渡邊浩文部会長

いやもうその通りですね。Greenest ですからね、一番を目指していかないと、ということですね。事務局から何かありますか、コメント。

○松田政策企画課長

今のご指摘を踏まえて修正案を考えたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ほかはいかががでしょうか。今野薫委員、どうぞ。

○今野薫委員

皆さんおっしゃられたのとほぼ同じなのですが、特に細かい点なのですが、目標のところの4行目、そしてというふうな形でここからグローバルになっています。この「そして」をどう読み取ればいいのかとさっきから少し悩むところがあるので、この辺りを分かるような形に表現を変更されてはいかがかなというご提案です。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。文章の精査をさらにということですね。

○松田政策企画課長

了解いたしました。

○渡邊浩文部会長

よろしく申し上げます。ほかはいかががでしょうか。どうぞ。菊地委員。

○菊地崇良委員

今のグローバルな話と世界の話が前面に出ているのはその通りで、もう少し国内の件もしっかり書いてほしいと改めて思いました。今回の新型コロナウイルスは国内の需要をしっかり、あるいはその生産をやっていかなかったツケが出ているわけでありまして。イギリスでは反グローバリズムをやっているけども、そこも考えながらあまり「外国、外国」と言うのは危険な感じもこの昨今しておりました。

文章の話に行くと、今野委員からお話があったように、この文章を生かすとするれば「グローバルな視点から戦略的に」というふうにいうと、世界だけになってしまうではないですか。「グローバルな視点からも」というのであればまだいいと思っていたけども、とらわれずにもう1回抜本的に見直ししてもらいたいと思います。

それから、01、02、03と実施の方向性があるのですが、これもそうなのです。世界各都市との戦略的提携はあるのだけど、国内の、東北の227市町村との共存共栄をやっていきましょうとやってきているわけじゃないですか。

もう1つは今、ここにお並びのまちづくり政策局は、国家戦略特区によって東北の成長エンジンを生み出して、これを広域的に、多層的に引っ張っていかうというふうにやっているわけでありまして。これはこの向こう10年間も変わらないし、重点施策の1つなのだから、それをこの01、02、03、少し外国に寄りすぎているものを、若干バランス良くしたらいいのではないかなと思います。

○松田政策企画課長

併せて検討・修正したいと思います。

○渡邊浩文部会長

よろしく願いいたします。館田部会長代行、どうぞ。

○館田あゆみ部会長代行

竹川委員が何回か言っていたと思うのですが、仙台は支店経済のところがあるという部分で、今回も新型コロナウイルス感染症の影響で出張が制限されている中で、各拠点でいろいろな工夫をしています。リモートワークがとても盛んになるといえるか、たぶん当たり前のものになってきている状況なのではあるけれども、その中で拠点機能の充実みたいなのがこれから図られていく時に、仙台市がきちっと全国の中の大きな拠点の1つなのだというのを大企業にきちっと意識させて、東北の支店もしっかりと強力にしていくという意識を持ってもらう必要があるのかなと非常に感じております。

そういう意味では大きな企業を呼び込むというのは経済的にも非常に大切ですので、どこかの拠点が使えなくなった時に、「きちっと仙台市が機能を果たします」みたいな感じの、「そういう役割もできますよ」というのがどこかに書いてあるといいと思います。

また、それに関連して、実施の方向性の03のところには東北・仙台に世界中から人を呼び込むというところで、観光のことが書いてあるのですが、仙台に来る人はビジネスマンがすごく多いのではないかなと思っています。出張で来た人たちがここで何をしていくのかという、出張に来た人たち向けのコンテンツの充実というのも必要なかなと思いましたので、支店経済と併せて少しそこら辺も書き込んでいただくといいのかなと思いました。

○松田政策企画課長

2つ目の「人を呼び込む」がビジネスマン対象のところを見ていないような書きぶりになっているところであれば、ちょっと工夫したいと思います。

1つ目のいわゆる拠点性を高めるというところで、仙台市の拠点性をアピールしてもっと大きな企業に来ていただくという視点については、このプロジェクトなのか、この後ご審議いただく都心創生プロジェクトの中でも、ビジネス環境の構築等々の話が出てきますので、そちらの方に入れ込むのがいいのかというところについては、検討させていただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。飯島委員、どうぞ。

○飯島淳子委員

先ほどの議論、まだよく理解しておりませんで、課長がおっしゃったように、⑦と⑧とは対置されていると思います。前回のバージョンと比べますと、「仙台・東北」だったのが「東北・仙台」になっていまして、経済・産業・観光というものについては東北の単位

で捉えるのだということがメッセージとして出されているのかと理解していました。

なお、細かい文言で申し訳ないのですが、02の農食ビジネスでは「地消地産」となっているのに対し、施策別の37ページでは「地産地消」となっている。最後の行の「外国人の方の受入環境整備」にいう「方の」はいらぬのではないかという点だけ申し上げます。

○松田政策企画課長

文言については、今1つご指摘があったところは直し忘れがたしかにありましたので、そこは揃えたいと思います。

○渡邊浩文部会長

笹羅委員、今日のご発言ありませんけども、せっかくですので。ちょっと今振りますので、コメントでも感想でも何でも結構かと思っておりますのでどうぞ。

○笹羅良輔委員

今回初めて出ささせていただいて、すごくまとまっているなというのが本当に第一印象です。皆さんのいろいろな要望とか、指摘というのも目で追いつけないぐらい早いスピードだったもので、これから慣れて発言していきたいと思っております。

東北チャレンジプロジェクトということで、東北が大きく出されている中で、食のビジネスの推進ということで、地産地消の推進、農業の収益性・向上性というところで、もう少し付け加えるようなことがあるのではないかなと思うのですが、具体的なものを付け加えられれば、というところで止まっています。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。無理にご発言を求めたような雰囲気になってしまったとしたら恐縮ですが、本当に忌憚なく、遠慮なくご発言していただければというところであります。

ここで何かもう少し言えることがあるのではないかと感じられたのだとしたら、これからも全体会のほうに議論の場は移りますけども、意見するチャンスはまだあります。

是非そのモヤモヤとしたところをお持ち帰りいただいて、次回それをバーツと発散していただければと思うところです。よろしくお祈りいたします。

⑦について、どうぞ。榊原委員。

○榊原進委員

02のところの農食ビジネスで、仙台だけで言えば農業だけでもいいかなと思っておりますけど、東北に目を向けると、海で魚を捕ったり養殖したりという水産業もあるので、農に限定したほうがいいのか、水産みたいなところも含めていくのか。東北だとたぶんそこまで視野が広がると思われました。「食ビジネス」と言って、東北のそういう水産を含めた一次産業のビジネスをしっかりと仙台としてはアピールするというのであれば、そういう書き方があるかなというふうに思いました。参考にさせていただければと思います。

○渡邊浩文部会長

何かありますか。コメント。

○梅内まちづくり政策局次長

先ほどの笹羅委員のご意見にもちよっと対応する部分なのですが、東北の拠点としての仙台のあり方ということで、商工会議所さんでは水産業が震災による被害にあったので、東北沿岸各地の被災地の水産加工品を仙台で集めて集中展示会のようなことを復興庁と一緒に企画・運営されています。

通常の展示会よりも非常に注目が集まる。東北は二次移動が長いものですから、それぞれのまちを回るのは大変なのですが、仙台でやると東北中の太平洋沿岸の海産物が見られるということで、マッチング率が通常の展示会の数倍高いというような取り組みが復興の過程の中で行われております。我々としても今、榊原委員からもありましたけれども、仙台だけで見ますと水産業の生産高はほぼないのですが、東北全体を見れば水産業は主力産業でありまして、各々の地域はそれを東京にあるいは世界に今売ろうと思って頑張っています。その展示がうまく仙台でできれば先ほどから、農食ということによってような拠点ができるかなという思いはあって、本当はそういうことが書ければいいのですが、今はお金があるところにモノが集まるので、東京でも相当の東北のものが食べられたりするというところがあります。

そのあたりで都市政策なのか、もちろん企業の皆さんと連携なしにはできないのですが、そういったような拠点化というような取り組みが必要ではないかというような意見は、やはり市役所の中でも議論がありました。

これは会議所をはじめ、関係団体の皆さまとも連携して、そういった取り組みはどういうふうに進められるか、またこの部分の記載を先ほどおっしゃったようなところを含めてどう書いていくかというのも考えていかなければいけないと思っているところでございます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

今は農業に関連しての話でした。農業には林業もあるのです。森林環境譲与税とかが入ってきて、仙台は4分の3を緑が占めるということで、ここにも今から光を当てようとしているわけでありまして。

水の話をするのであれば、林業の話も書く必要があるだろうと。これは最後のほうの分野別計画の中にはなかったような気がしたのですが、37ページに書いてありましたね。水を入れるのであれば森林も入れるかどうか検討していただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。まだまだご意見があると思いますが、次に進めさせていただきます。

最後の4つ目が27、28ページにある「⑧ 都心創生プロジェクト」でございます。

先ほどの⑦の議論でも、こちらのほうに関わるようなご意見もいくつか出始めていたとは思っておりますけれども、特に⑧のプロジェクトについてご意見・ご質問等々を頂戴したいと思います。どうぞ。舟引委員。

○舟引敏明委員

少し大きな意見なのですが、中身の書いてあることについて異論はないのですが、  
「イノベーションが起りやすい環境をつくれます」とか「まちの回遊性を向上する」というのが大きなこの目的であって、その手段としてリノベーションを掲げているのですけれども、地の文に入ってしまったのです。

建築物の建て替えの機能更新の際に、どういうふうにもちの機能を誘導するかのほうがリノベーションより圧倒的に強いパワーを持ちます。リノベーションはそこそこ効果があるのですが、そのところが今は少し埋もれてしまっているのです。手段としては建て替えによる機能更新とリノベーションは並べて書いたうえで、機能更新をする時に、やはり市が具体的にどういう方向でやるかというのを口に出していかないと、こういう高機能更新ができないと思うので、そこは整理が必要だと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。すぐにはコメントできないかもしれませんが、何かありますか。

○松田政策企画課長

今のご意見と同様のご意見を以前にも舟引委員からいただいていた、まちをつくり変えていく時に、やはり建て替えというのが1つの大きなきっかけ、契機になるというご意見をいただいていたことを思い出したところでございます。

リノベーションだけに焦点を当てるのはあまり合理的に意味がないのではないかと  
いうご意見であったと思いますので、検討させていただきたいと思います。

○舟引敏明委員

リノベーション「も」ということです。

○松田政策企画課長

そうですね。失礼いたしました。

○榊原進委員

ここはすごく重要なことだと思って、前々回から舟引委員がおっしゃっていたところも含めて、何となく新陳代謝とか機能更新とか、新しい用途に変えていくみたいなどころでいくと、もしくはそういうイメージの方が合うかなと思います。

リノベーションだけではなくて、建て替えも含めてとなると、そういう表現はどうなるのかというのはちょっとモヤモヤと考えていたところでした。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。今委員、どうぞ。

○今里織委員

すごく細かいところで2つあります。まず1つ目の目標の「人が集い、創造性が開く都心をつくる」の「開く」はずっとこの「開く」だったのですが、閉じているものが開くというイメージなのだろうなと想像はしているところなのですが、今は創造性がないのかなというのと、この「開く」でいいのかとか、もっとほかの言葉が思いつけばいいのですが、そのほかの言葉のほうがいいのかと悶々としたところが1つです。

もう1つがまたさらに細かいのですが、3行目に「チャレンジ精神のある方々が集い、行動しやすい環境を整えます」というところなのですが、その通りで、その通りにしていくのは「私たち」なのですが、「チャレンジ精神のある人たちだけがやります」みたいな、すごくネガティブな捉え方もされかねないのではないかと思います。ちょっと表現を変えられるのであれば、変えたらいいのかなと。でもどう変えたらいいのだろうかというところはありますが、そういうご提案です。よろしくお願ひいたします。

○渡邊浩文部会長

姥浦委員、どうぞ。

○姥浦道生委員

今の話に関連してなのですが、私も全体としてそういうことで書いてあるので気になったのです。つまり、一般市民の人が普通に都心を歩いて楽しいとか、のんびりできるとか、子どもたちが遊べるとかいろいろある中で、たぶんこれが選ばれたのは、通常の施策ということではなくて重点プロジェクトのところで書いてあるので、ここに集中するのだということを書いているのかと思ったのですが、であれば、「ここは集中するのです」と書いたほうが良い。「でもほかの人を見捨てているわけではありません」というのも合わせて書いてあったほうが分かりやすいかなという気がいたしました。

○松田政策企画課長

まず「開く」のところ。この開くという言葉がいいのかということも再考の余地があると実は思っています。たぶんご指摘のところだと、拓という字の「拓く」のほうが、今あるものをさらに高めていくという意味合いなのかなと思いますが、果たして「ひらく」という言葉そのものもいいのか、改めて検討させていただきたいと思います。

ここの都心創生プロジェクトは、私どもの書き方が極端なところがあったのかもしれませんが。チャレンジ精神のある人だけが来てほしいとか、一般の人ではなくて、より志の高い人たちがまちを変えて行くという書きぶりになっているとすれば、そこは私たちの筆が走りすぎてしまったところかと思ひます。

姥浦委員のおっしゃるような、一般の市民の人たちもこの都心を十分楽しめる、歩いて

楽しめる、そして時間を過ごすことができるというような意味合いも実は「まちの回遊性を向上する」のところに入れてあるつもりではあったのですが、なかなか今その目標のところ、そういう一部の人に焦点を当てたような書きぶりになってしまっているのであれば、書き方のところを見直したいと思います。

○姥浦道生委員

ただ、プロジェクトはあくまで、元の言葉で言うと、重点プロジェクト、チャレンジプロジェクトですので、私は必ずしも総花的にある必要はないと思っています。ですから尖った部分もあっていいと思っていて、ただ、「尖っているのですよ」ということを書く必要はあるかなということです。これは私の意見ですが。

○渡邊浩文部会長

菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

表題の都心創生プロジェクト、「創生」です。そして目標の中には「創造性」と書いてあります。創生というと、地方創生というのを今やっていますので、例えば前のページのTOHOKU チャレンジプロジェクトのほうが「東北創生」ということで馴染むのかなと思いがら見ていました。そして、⑧は都心「創生」というよりも、僕は都心「創造」のほうがむしろマッチするのかなと。

たぶん都心再構築プロジェクトという現状の施策とは別の名称にしたいので、こういうふうなもう少し発展的な表現にしたと思うのだけでも。この創生と創造を使い分けている意味を考えると、むしろ分けなくていいのではないかという意見です。

○松田政策企画課長

都心創生としましたのは、菊地委員から今ご指摘がありました通り、今仙台市が進めている都心再構築プロジェクトの要素が、この⑧のプロジェクトと、それから都心の魅力ある空間づくりというのは、実はプロジェクトの1つ目のところにも入っていますし、さらには先ほどご審議いただきました⑦のプロジェクトにも入っている。それらを今、全部まとめて都心再構築プロジェクトとして進めていますので、ワードの使い分けが必要だろうというところで、今は都心創生プロジェクトという名前にしましたが、ネーミングについては先ほどからいろいろご指摘を頂戴しておりますけれども、よりよい表現がないか検討してきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

どうぞ、竹川委員。

○竹川隆司委員

細かい点かもしれないのですが、大事な点かと思しますので、28 ページの「国際競争力

のあるビジネス環境」というワードがあって、これは何だろうと今ずっと考えていました。

私自身、いろいろな国際競争力のあるビジネス環境の中で働いたことのある身として、例えばハーバードの友だちとか、イケてる AI エンジニアとか、どういう環境だったらそういう人たちがここに来てくれるのだろうかと思うと、高機能なオフィスビルは東京でいいと思うし、テナントのオフィス拡張に伴う移転促進はどこでもできるのです。

例えば、秋保の廃校で温泉に入れるコワーキング施設があったら、エンジニアが来るだろうとか。つまり何が言いたいかというと、今ある仙台の魅力を生かしたビジネス環境づくりという視点がここにはないと思ったのです。

結局は、緑とか温泉とか、おいしい食とか。それを打ち出すことで人が集まり、それがビジネス環境につながるということではないかと思います。個人的にどういう場所だったらビジネスをやりたいかと思った時に感じたので、そういう要素もせつくなのであると仙台っぽくなるのではないかなというふうに感じました。

○渡邊浩文部会長

何かあればどうぞ。

○松田政策企画課長

ご指摘の通りです。今仙台市が進めている都心再構築プロジェクトには秋保温泉までは範囲として入っていなかったのですけれども、緑豊かな都市空間の中でのあのビジネス環境の整備というところと、災害対応力にも強いというところも打ち出している。それがいわゆる強みになるというところのビジネス環境の向上というところで、セットで考えていたところでした。

それが先ほど申し上げたように、プロジェクトを分けて杜と水の都プロジェクトに、その緑のところを持って行ってしまったがために、ここで言う国際競争力が浮いてしまっていると思います。表現の方は考えたいと思います。ご指摘ありがとうございました。

○渡邊浩文部会長

はい、いかがでしょうか。まだまだお気づきのことが出てくるとは思いますが、この「Ⅲ チャレンジプロジェクト」がメインとはいうものの、冒頭申し上げた手前のところも触れておきたい、もう1回確認しておきたいというところがございますので、まずはこのチャレンジプロジェクトの、少なくともこの部会の4つについては、まとめさせていただきたいと思います。

僕、つい言ってしまいましたが、この部会ではなくて「地域と暮らし部会」の方が所管の③、④、⑤、⑥についても意見があったら言ってくださいみたいなこと言ってしまったので、簡単にピンポイントでここをもう少しこういうふうに気を付けたほうがいいのか、何かあればパッと手を挙げていただければ。1つ2つ取り上げたいと思いますが。

今委員、どうぞ。

○今里織委員

③の心の伴走プロジェクトのところなのですけれども、目標の多様性が尊重されて、これを実行するのは私たちなのですよね。なので、多様性を尊重するというのもいいのかなと思いつつも、こちらの概要というのはたぶん市民の皆さんが見ることはあるのかどうか、私もどうなのかなと思いつつも、こっちの横の修正版の概要のペーパーの中で、目指す都市の姿の右上のところに、多様性が社会を動かす共生のまちへと書いてあるところがあるのですが、その2行目にも多様性が尊重されてという言葉があるのですが、多様性は尊重されて当たり前のものであるという視点に立った時に、この言葉はどうなのだろうと思いつつしていました。

あと全体の書きぶりのところで、「される」というよりも、自分たちが「していく」というような表現のほうがより前向きで、自分たちのものだというふうに捉えられるのかなという、その2点が読んでいて気になったところがございます。

○松田政策企画課長

ご指摘の点を踏まえて、修正を考えたいと思います。ありがとうございます。

○渡邊浩文部会長

ほかはいかがでしょうか。読み込めばきつと気がつくところが出てくると思うのですが、それについては例えばですけども、近々に、本当は言いたかったのだけど私に遮られたというようなことであったならば、事務局にお伝えいただくというような扱いにしてもよろしいですか。

○松田政策企画課長

審議の時間は限られておりますので、後ほどお気づきの点があればメール等でも構いませんので、いただければ検討させていただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ではすみませんが一応そのように扱わせていただきまして、かつ次回は全体会のほうに戻るわけですけれども、そのプロセスで当然今日のご意見を踏まえた修正が施されるということになろうかと思いつついます。

一応部会としては今回が最終回ということですので、その修正案については部会長の私にまずはご一任いただいて、全体会でさらにご意見をいただくというようにさせていただきたいと思いつついますので、ご承知おきいただければと思いつついます。

まずはチャレンジプロジェクト、たくさんのご意見をありがとうございます。まずはある方向を確認できたのではないのかなというふうに思いつつところです。

もう1つ、今日是非取り上げなければいけないというのが、手前のほうに戻りまして、5ページ。今日もすでにご意見が出ていたところでもありますけれども、5ページの計画の構成、特に全体構成図のところから、右側の6ページ、7、8、9、10、11もご意見がすでに出ていましたけれども、5ページから11ページまでについてであります。

ここについても、一部でご意見が出始めていたところではありますけれども、6ページ

に“The Greenest City” SENDAI というふうなことにして、この8つのプロジェクトを付けたわけですが、この5ページの構成図でいうところのつながりというか、まだ建て付けが十分ではないというところは先ほどもご議論、ご意見を頂戴したところですし、これまでの部会でもまさにこの辺のところを繰り返し議論してきたというところだったかと思えます。

今回、このページ、特に5ページが追加されたことで、より関係性だとか、逆に課題だとか、そういったものも見えてきたのではないかというふうに思うところです。

ここで、少し時間を取って、できればちょっとオーバーするなんていうのはよろしいのですか。

○松田政策企画課長

大丈夫でございます。

○渡邊浩文部会長

そうですね。なるべく20時15分ぐらいを目処に進められるといいかなというふうに思っているところですが、時間が超過することをまずご容赦いただきたいという、これは部会長からお願いでございます。

それを踏まえて、この部分の議論、10分から15分ぐらいはできれば取りたいというふうに考えておるところでございます。さらに意見交換をした後には、親委員会、全体会のほうにどのように審議を戻すのかというところも必要に応じて確認しなければいけないのかなというふうに思っているところです。

ということで、この5ページの構成図のところから「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」ということで、4つの都市個性というものが11ページまでにかけてまとめられておるわけですが、ここについて今一度、この部会として確認しておきたいというところです。

皆さんからのご意見・感想・ご質問等々がありましたら、まずは手を挙げていただきたいところですが、いかがでしょうか。

竹川委員、どうぞ。

○竹川隆司委員

1点だけ。6ページのGreenest Cityのところなのですが、Greenの説明をいただいているのですが、これまでの議論の中でも、日本一・世界一というのを目指すという話も少し出ていましたけれども、「est」を使っているという意図をこの文章の中に入れていただきたいというふうに思いました。

一番下の「Green という私たちにとって大切な意味を込めた言葉を重ね、世界を見据えて常に高みを目指し」というところがたぶん最上級の話だと思うのですが、例えば「最上級を用いることで」、世界を見据えているみたいな表現にするとか、最上級だというか、方向性を示しているということをここで覚悟も含めて書いていただきたいなというふうに読んでいて感じました。

○渡邊浩文部会長

事務局、よろしいですか。

○松田政策企画課長

ご指摘の点は、先ほどご説明しました第1回定例会におきましてもご質問がありまして、最上級の意味を、まさに最上級という言葉を使いまして私がお答弁申し上げたところでありますので、より分かりやすいような表記に努めたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ほかはいかがでしょうか。はい、菊地委員。

○菊地崇良委員

5ページの構成図です。これがⅡからⅥまで入っています。「Ⅰ はじめに」がないのはいびつに感じる場所があります。Ⅰが必要ないのかというと、実は結構大事な計画の背景のことを書いているのです。

ここは計画をつくるうえで、抜かしてはいけないところだと思うので、「はじめに（背景）」というふうにして、そして5ページの構成図の中にも背景というのが入ってこない、計画として何か欠如しているのではないかという感じがしますので、ご検討いただきたい。それと、矢印はこういう矢印ではないですね。あくまでも最後の総合計画の着実な推進なんていうのも、区別計画を遂行するときに、これを下から支える矢印もあるはずだから、ここの整理はまた後でしっかり見てもらいたいなと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。舟引委員、どうぞ。

○舟引敏明委員

小さい話です。7ページです。今回新しく追加していただいた3行目の「街全体を緑で包む様相を呈していました」ということなのですが、この様相を呈するというのは、頭に混乱がとか、若干ネガティブな、ダイナミックな話の時に使って、あまりスタティックな表現には使わないような気がします。これは個人的な意見なので本当かどうかよく分かりませんが、単純に「緑で包まれた美しい街を形成していました」とか、文語的になるかもしないですけど、そういう表現のほうが混乱はしないのではないかと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ご検討いただければと思います。

ほか、いかがでしょうか。どうぞ。榊原委員。

○榊原進委員

いくつかあるのですが、5ページ目の分野別施策では、先ほど課長は「行政としての

仙台市が取り組むものです」とおっしゃっていたのですが、ここに主語がないのです。上のⅢのところのチャレンジは「私たちが」なのですが、ではⅣも「私たち」がやるのかなという流れにも見えなくもなくて、でもこれは行政がやるということなので、ちょっとそこを書いた方がいいのかなというのが1点でございます。

7ページ目は今の舟引委員がおっしゃったところも含めてなのですが、「城下町に広がった緑は郊外の」というところなのですが、今としては、郊外はもっと先なのですが、当時の城下町としては郊外周辺に寺社林があってということの郊外を言うのか、今の郊外かでは全然違うので、今の郊外と考えれば、郊外と入ってしまうとややこしいので、外したほうがいいかなと思います。また、寺社並木なのか、寺社林なのか、並木に限定しなくてもいいかなというのがありました。

あとは文章ではないのですが、10ページの活力の色が前はピンクだったのですが、青になったのです。たぶんこれはグリーンライトの青信号で青になったのかなと思うのですが、何となく活力というと個人的なイメージだと赤っぽいイメージかなというところがあって、これは人の好き嫌いもあるのですが、それを合わせると、11ページの都市個性の色と、ここの4つ、暖簾のようにぶら下がっている部分の色がちょっと違うので、この辺は要調整かと思います。

印象として活力は何となく赤っぽいイメージかなと思いますが、でもグリーンライトの関係性があるなというのは思ったところです。

#### ○松田政策企画課長

ご指摘いただきました文言の表現のところについては、修正を検討したいと思います。色のところはまさに事務局でも悩んでおりまして、グリーンライトで赤ってどうなのだろうという議論がありました。

いい色がないか、併せて最後にデザインを決める時に、いろいろと工夫させていただきたいと思います。

#### ○渡邊浩文部会長

菊地委員、どうぞ。

#### ○菊地委員

8ページです。前回、梅田川という言葉だけでなく、広瀬川もあったよねという話があったのだけれども、ここを1つに絞ったのはやはり何か理由があったのですか。梅田川というふうに特定した理由はありますか。

#### ○松田政策企画課長

ここはどちらかというところ、網羅的というよりは行数も限られているところもありまして、象徴的な取り組みを列記しているところでございます。

そういう意味では仙台市で梅田川の清流の運動というのは、仙台市史を見ましても、特筆して記載されているところございましたので、あえて梅田川ということで今回書かせ

ていただいたところでございます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

では私から1つだけ。皆さんすでにご指摘されているところですが、チャレンジプロジェクトのところで、いわゆる掛け算の表記について座りが悪くて取ってしまったのは決して悪い判断ではなかったと思うのですが、逆にそれが故にこの4つの都市個性とのつながりが全く見えなくなってしまったというところが改めて戻ってみると、よりよく分かるなというところがあります。やはりその全体の建て付けの部分の議論では、そこはなんとかしないと、せつかくの構成図も生きてこないというか、もうひと工夫できるのではないかなという感じもいたしますので、そこは是非検討してください。と言いながら、最終的には部会長が預かりますと言わなければいけないので、微妙なところがありますが、検討する必要があるなど改めて思いましたのでコメントしておきます。

皆さんのほうからいかがでしょうか。

このI章・II章については、もちろん時間の都合もあって議論を尽くしきれたかという点、必ずしもそうではないかと思いますが、概ね大きな論点と、文言の工夫というふうなところに大きく皆さんのご指摘が整理できるかなと思いました。

まだI章、特にII章、III章、IV章のつながりという形づけのところは、もう一工夫、二工夫が必要だというのは今日の大きなご指摘だったかなというふうに思います。

それぞれのチャレンジプロジェクトについても、何のためにとか、誰がとか、そういう基本的なところが分かりにくいというふうなご指摘も結構大きなご指摘だったのではないかなというふうに思っておりますが、概ねこういう流れで、I章を受けてII章、III章というふうに、流れそのものはおおよそご理解いただけたのかなというふうには思ったところです。

なお、事務局にはもうひと頑張りしていただいて、より良い修正案につなげていただきたいと思います。

残り10分ぐらいになりましたが、ご覧になってご意見をお持ちの方がいらっしゃると思いますので、IV章の分野別施策一覧。29ページ以降です。

それから「はじめに」のI章のところは先ほど菊地委員からご指摘いただいたところですが、それ以外にもV章の「区別計画」、それからVI章の「着実な推進」というところ、それからまだ中身はほとんどありませんけれども資料編という残りの部分についても時間がもう過ぎておりますが、5分なり10分なりを取って、ご意見を頂戴したいと思っております。

まずIV章、29ページから39ページまでの「分野別施策一覧」、ここについてご意見等々がありましたら頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。もちろんそれ以外の部分も含めて、お気づきのことがあれば。もうこの4回にわたる部会のラストですので、何かお気づきの「これはちょっと言っておきたい」とか、全体会のほうに戻る前に「ここだけは言っておかないと、ちょっと議論が難しいことになってしまう」みたいなことは今の段階でおっしゃっていただければと。もちろん、お気づきのことを忌憚なくということもご

ざいます。

皆さんからなければ、私が少しだけ気になったのは、この分野という言葉が若干気になっていまして、この分野というのは、Ⅱ章でいうところの都市個性に対応しているように整理されているわけですが、それを分野別施策一覧という、分野別というふうに言ってしまっているのかなというところが気になったところです。

どういう言葉がいいのか、よく僕も分かりませんが、ご検討いただいたほうがいいかなと思ったところのひとつです。おそらく前の議論の文言が残っているというぐらいの感じだと思うのですけど。

○松田政策企画課長

そうですね。「重点と分野」という区分だと明確だったと思いますが、「チャレンジと分野」というと、少し噛み合わないところかと思います。

よりよい表現がないか検討させていただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

飯島委員、どうぞ。

○飯島淳子委員

チャレンジプロジェクトと分野別施策との関係性について、姥浦先生が「私たちがやるものと、行政がやるものという区別」とおっしゃってくださいました。事務局からも、重点という名称だと予算の配分につながってしまうから、チャレンジに変えたという説明がございました。しかし、私としては予算の配分につながることもまさに重点の意味なのではないかと理解しておりました。もう一度確認させていただければと思います。

○松田政策企画課長

チャレンジプロジェクトに変えた背景でございますけれども、「地域とくらし部会」からは重点プロジェクトと言うと、どうしても予算を重点的に配分するというふうに受け止めてしまう、実際に誤解されていた知人の方がいらっしゃったという委員からのご意見もありました。

これまでのご議論の中では、私たち自身がいろいろ力を持ち寄って取り組む、まさにスポットを当てて、ここにさまざまな市民・企業・団体の方が集まって取り組みを進めていくという8つのスポットこそがプロジェクトだという議論を進めてきたというふうにご認識しておりますので、そういう意味では重点ではなくてチャレンジというところにより表記に重きを置いて、チャレンジプロジェクトという名前に変えたというところでございます。

○飯島淳子委員

そうしますと、計画には優先順位付けも1つの要素としてありますけれども、そうではないということでしょうか。

○梅内まちづくり政策局次長

未整理の部分がございますけども、チャレンジプロジェクトというのは、これまで重点プロジェクトと言ってきたというところもありますが、その優先順位としては高く上げたいと思っております。

この Greenest との関係をまだ整理できていないのですけども、この Greenest City を達成するために8つのプロジェクトに力を入れてやっていくという意味ではそうなのですが、先ほど課長から申し上げましたように、重点というふうに言われると、重点のところになかった分野の方がやはり気になるところがあるというようなご指摘、予算をつけるうえでの配分があるのではないかというような懸念が生まれてしまうというのでしょうか。そういうご指摘があったので、我々としても主役の優先順位ということは意識しつつ、どういう表記がいいのだろうというところを今悩んでいるところであります。

優先順位を付けなければ財政難になっていく中で厳しいというのはその通りでありまして、そのためにも市民の皆さまと一緒に取り組んでいくことも重要だと思っております。いろいろな皆さまに参画していただくこと、それをチャレンジプロジェクトを中心に、それ以外の分野でも当然やっていかなければいけないというところで、表現においてすべてを網羅するのはなかなか、まだできていないということかと思えます。構成としては当初重点ということでお示ししておりましたので、そういった意識はございます。

○渡邊浩文部会長

よろしいですか。はい。菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

今更なのですが、29、30 ページの施策の体系は要らないのではないのかなと。今までずっと 28 ページまで文章的にやってきたのに急にここでいきなり目次が入ってくるので違和感を覚えるのです。

29 ページ、30 ページは何が違うのかなと思って、31 ページ以降を見てみたら、環境・共生・学び・活力という分野で分けていますということを 29、30 ページは書いているに過ぎないのだろうと。だからあえてこれは要らないのではないのと。

31、32 ページの区分ごとに環境・共生・学び・活力を書き入れれば、十分事足りるのではないかと思うので、ご検討いただきたいと思えます

○渡邊浩文部会長

何かございますか。事務局から。

○松田政策企画課長

29、30 ページは菊地委員のご指摘の通り、その後続く 31 ページからの施策一覧が基本的に分かりやすく一覧できるように、目次的に入れていたところがございます。この部分について抜くかどうかというところにつきましては、ご議論をいただければそちらも

踏まえて対応したいと思います。内容が重複はしておりますが、目次的なものというところで載せさせていただいておりました。

○菊地崇良委員

読みやすくするのだったら、例えば 32 ページの下のほうに「多様性が社会を動かす共生のまちへ」と書いています。これをページ改めて、次のページに書いて始める。そうすると読みやすくなるから、あえて目次で起こす必要がないと思います。というふうに意見として申し上げたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。姥浦委員、どうぞ。

○姥浦道生委員

一言だけですが、先ほどの飯島委員のご意見に 1 票です。チャレンジプロジェクトが分かりづらいのではないかというお話。重点、予算をどうするのかというのは単年度の話でしようけれども、市の姿勢としてこれだけ力を入れる、もしくは市民と一緒にここはやはり「やる」という意思表示でしようから、先ほどから私もずっと重点プロジェクトとか、重点と申し上げていたと思いますけど、分かりづらいような気がします。

○渡邊浩文部会長

よろしいですか。何かありますか。

○松田政策企画課長

チャレンジプロジェクトの名称については、検討させていただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

いかがでしょうか。40 ページには「区別計画」。これは各区に落とし込むようなお話なので、まだこれからというところでしょうが、VI章の「総合計画の着実な推進」というところが、もう 1 つ最後に。ここも真面目に議論しようと思えば、これだけでというところではありますけれども、是非この部会の場でというコメントがあれば頂戴したいと思っております。榊原委員、どうぞ。

○榊原進委員

区別と言いつつも、例えば太白区は秋保総合支所もあります。現総合計画の区別計画をみると区一括りで、太白区の中に秋保のゾーニングみたいな話があったのですが、一方で、支所という部署があるというのは、これは今回も区の中に位置付けるのか。何か特出しとどうか、区と支所別にするのか。その辺はありますか。

○松田政策企画課長

現時点で区のほうで進めている形としましては、支所であったとしてもそこは1つのエリア、宮城総合支所であれば青葉区、秋保総合支所であれば太白区の中の1つのエリアとして捉えて、その地域特性をきちんと踏まえた形で方向性を出すということの議論を進めているところでございます。

#### ○榊原進委員

青葉区、太白区、泉区もすごく東西に長くて、一緒くたに議論しづらいなと思います。西部は泉区も含め、青葉区もこう横断しているところがあって、それを区別と言ってしまっているのかなというのは何となく思っていたのです。それを支所別となると、今度は泉区の西部には支所がないなと思ってしまったので、その辺をどういうふうに見ればいいのかという、ちょっとモヤモヤしていたところでございました。質問と言いつつ、問題提起的な意味づけです。

#### ○松田政策企画課長

次回、全体会の中で区別計画の骨子案を出してまいりたいと思いますが、現時点での検討状況としましては委員のご指摘の通り、1つの区であっても非常にさまざまなエリアがあるということを踏まえまして、それぞれの一定の地域・エリアごとに特性を踏まえつつ、施策・地域づくりの方向性を書いているというところでございますので、なかなか一緒くたにご議論しづらいというのは、その通りでございます。今後ご議論をお願いしたいと思います。

#### ○渡邊浩文部会長

いかがでしょうか。もしよろしければ、ここまでというふうにしたいと思いますが、よろしいですか。途中でお話し申し上げた通り、ご意見等は事務局にお寄せいただければということでありまして、修正については奥村会長とともに、もう1つの「地域とくらし部会」の部会長とも議論をしながら、ということになると思いますが、まずはお任せいただきたいというところを申し添えます。

それでは、この部会での「基本計画の検討について」の審議はここまでにしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。はい、ではそのようにさせていただきたいと思います。皆さんご意見どうもありがとうございました。

#### (4) その他

##### ○渡邊浩文部会長

主な議事は以上ではありますが、「その他」について、こちらは私からは特になのですが、委員の皆さんから何か、「その他」ありますか。よろしいでしょうか。

はい、では本日の議事は以上で終了いたします。これまで4回にわたり、また今日は時間を超過してしまいましたが、皆さまのご協力でご円滑に、また有意義な議論ができたのではないのかなというふうに思っております。

特に、The Greenest City ということで、大きな方向性、杜の都の杜とは何だろうとい

う議論を去年の部会でしたわけですが、そこにある方向がついたというのは、大変良かったのではないのかなというふうに思っておるところです。

まだこれからも全体会の方に戻ってまた議論が始まるわけですが、まずはこの部会、つつがなく進めることができましたことは、皆さまに感謝を申し上げる次第です。また館田部会長代行におかれましてはいろいろとご助力いただきましてありがとうございました。

### 3 閉会

#### ○渡邊浩文部会長

最後に事務局から何か連絡がありましたらお願いします。

#### ○松田政策企画課長

事務局から、1点ご連絡がございます。次回の審議会は先ほど日程の段でご説明しました通り、全体会に戻っての審議となります。

日程は5月中旬で調整をさせていただいているところがございますが、日程及び会場等が決まり次第、お知らせをさせていただきたいと思っております。

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。それでは以上をもちまして、本日の審議会を終了いたします。